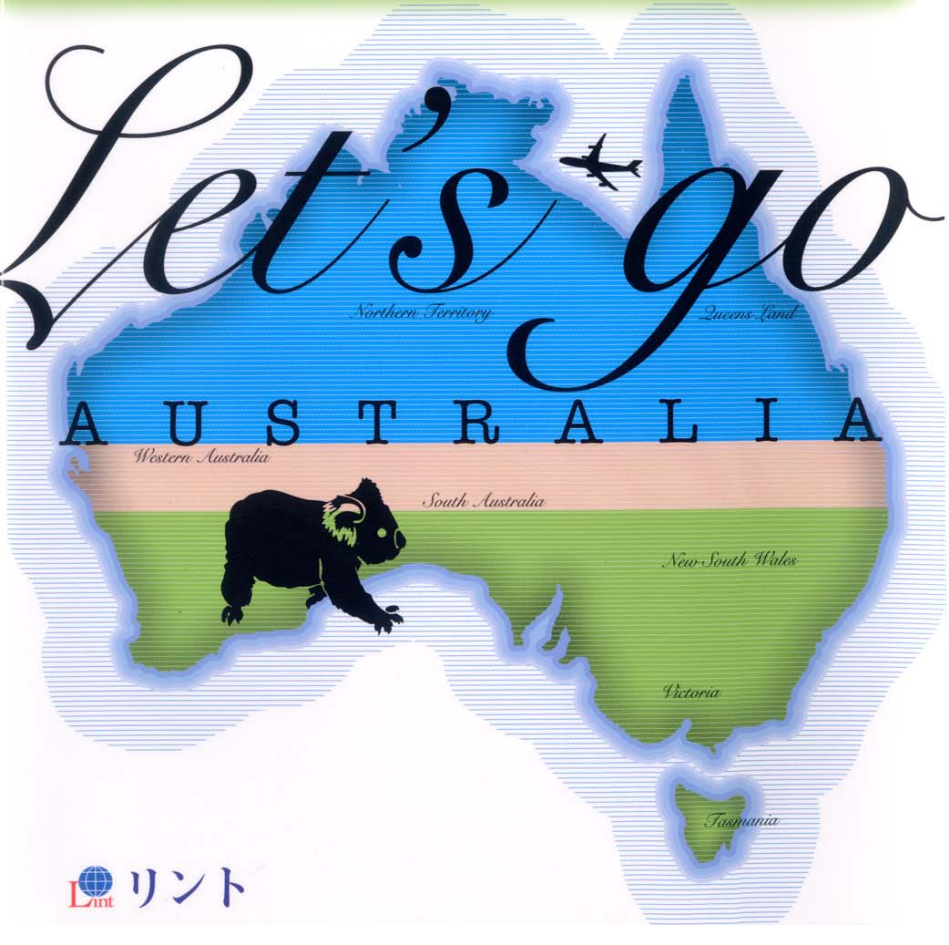
30のキーワードで読み解く

オーストラリアの取説（トリセツ）

川野 寛 著



リント

30のキーワードで読み解く オーストラリアの取説

川野 寛 著

ISBN978-4-902889-20-8
C0095 ¥1400E

9784902889208

定価 本体1400円＋税

株式会社 リント

1920095014005

オーストラリアを読み解く30のキーワード

歴史と文化に関するキーワード
- Anzac Day
- fair
- heritage
- indigenous people
- prospector
- royal

自然に関するキーワード
- biodiversity
- bush
- cane toad
- shark attack
- sustainable

社会に関するキーワード
- annual leave
- citizenship test
- compulsory
- detector dog
- removal
- standard drink
- TEE

人との交流に関するキーワード
- caravanning
- mate
- round
- school ball
- street party

日常生活に関するキーワード
- family business
- flying doctor
- public auction
- savoury pie
- Slip, slop, slap
- smoke-free
- watering days

はじめに

本書は一九九七年から二〇〇九年まで、英語学習誌*TOEIC Friends*および『TOEIC Testプラス・マガジン』に寄せた原稿を基に、必要な個所に手を入れて単行本にしたものです。「海外リポート」というコーナーで、オーストラリアの文化・習慣や社会制度など日本人に興味を引きそうなトピックを選び紹介してきました。この雑誌への寄稿のきっかけは、雑誌の編集者の父親がわたしの友人であったことです。その関係で、当時オーストラリアに家族で住んでいたわたしに白羽の矢が立ったわけです。

わたしたち家族が西オーストラリア州の州都であるパースに住み始めたのは、いまから二十二年前の一九八八年のことでした。当時日本で勤務していた製パン会社が、パースにあるケーキ屋チェーン店に資本参加し、企画担当としてその会社への出向を命じられたのです。そのケーキ屋チェーン店に十二年間勤務したのち、個人会社をパースで立ち上げて日本向けの貿易を行いました。そ

して、五年ほど前からは、パース郊外にあるトマト栽培農家での勤務を主な仕事にしています。

オーストラリアを簡単に紹介する意味で、二〇一〇年に英国研究機関のエコノミスト・インテリジェンス・ユニット（ＥＩＵ）がまとめた調査結果を見てみましょう。この調査は、世界の百四十の都市を対象に、「世界で最も住みやすい都市はどこか」を尋ねたものです。

下の表を見ると、わたしが住んでいるパースは八位。しかも、オーストラリアにある都市が四つも入っています。なぜそこまでオーストラリアの都市は人気があるのか、わたしなりに、その理由を考えてみました。

「世界で最も住みやすい都市はどこ？」
（二〇一〇年　ＥＩＵ調べ）

一位　バンクーバー（カナダ）
二位　ウイーン（オーストリア）
三位　メルボルン（オーストラリア）
四位　トロント（カナダ）
五位　カルガリー（カナダ）
六位　ヘルシンキ（フィンランド）
七位　シドニー（オーストラリア）
八位　パース（オーストラリア）
九位　アデレード（オーストラリア）
十位　オークランド（ニュージーランド）

●気候が良い

オーストラリアは、地中海性で、過ごしやすい気候の地です。夏は気温が四十度以上になることもありますが、乾燥しているので日陰に入るとあまり暑さは感じません。冬もほとんどの地域は

温暖で、霜が降りたり雪が降ることはめったにありません。

●インフラが整っている

都市部では上下水施設・道路・電信・公園などのインフラが整備されています。オーストラリアは車社会で、高速道路も市内を縦横無尽に走っています。高速道路は、もちろん無料です。

●人々に親しみがある

人々の仲間意識が強く、職業・地位・年齢・性別・民族などに関係なく、望めばだれとでも友達になれる雰囲気があります。

●国土が広い

内陸部は乾燥してほとんど人が住んでいないとはいえ、日本の約二十一倍の広さの国土に、日本の約十七パーセントていどの人しか住んでいません。日本より人口密度が低いので、家の敷地が広く、道路や公園なども日本に比べるとかなりゆったりとしてい

ます。

●自由でカジュアルな雰囲気がある

歴史が二百年余りと短いためか、しがらみや伝統から来る慣習が少なく、自由でカジュアルな雰囲気があります。大ざっぱでいいかげんと言えなくもありませんが、生活する分にはそのほうが居心地良いように思います。テレビ番組の放送が十分くらい遅れるのは日常茶飯事ですが、これなど日本ではまず考えられないことでしょう。

●社会福祉制度が整っている

医療と高校までの教育は公立だと無料です。国民はもちろんですが、わたしたち家族のように、国民ではなくても永住権を持っていれば、国民と同じサービスを受けられます。

オーストラリアの良い面ばかり述べましたが、もちろんこの国

にも多くの社会問題があり、嫌な面を目にすることもあります。でも、悪い面を上回るだけの良い面があるというのがわたしの実感です。しばらくは、居心地の良いオーストラリア生活を続けるつもりでいます。

本書では、オーストラリアを知るのに役立つ三十の話題を、英語のキーワードとともに紹介しています。内容はそれほど硬くないはずですから、気楽な気持ちで読んでください。本書が皆さんがオーストラリアを理解する手助けになり、またオーストラリアを好きになるきっかけになってくださることを願っています。

© Western Australian Government

CONTENTS

目次

はじめに iii

第1章　歴史と文化について知る 2
1　戦争のことを思い出すAnzac Day 5
2　fairを重んじるオーストラリア人 9
3　わずかなheritageも後世に残す 13
4　孤立するindigenous people 19
5　金と自由を求めるprospectorたち 25
6　royalを使えば「はく」が付く 31

第2章　自然環境について知る 36
1　biodiversityを尊重する 39
2　あこがれのbush暮らし 45
3　cane toadの侵略 51
4　思い出したころに起こるshark attack 57
5　大人も子供もsustainableを実践 63

第3章　社会制度について知る 68
1　労働者にうれしいannual leave 71
2　citizenship testが始まった 77
3　選挙の投票はcompulsory 81
4　検疫はdetector dogにお任せ 85
5　将来有望なビジネスは落書きのremoval 91
6　standard drinkを守って車に乗ろう 95
7　TEE目前でものんびりしている受験生 101

第4章　人との交流について知る 108
1　caravanningで老後をエンジョイ 111
2　"G'day, mate!"で、みんな仲間に！ 117
3　roundを経てひと回り大きな人間になる 123
4　school ballで社会人への予行演習 129
5　street partyで近所と交流 135

第5章　日常生活について知る 140
1　農場経営はfamily business 143
2　非常事態に頼れるflying doctor 149
3　public auctionで家を買う 153
4　オージーに人気のsavoury pie 159
5　"Slip, slop, slap"で皮膚がん防止 165
6　どこもかしこもsmoke-free 171
7　watering dayを気にする生活 177

あとがき 182

索引 187

表紙デザイン　美澤 修（omdr）

非常事態に頼れるflying doctor

flying doctor ―― ロイヤル航空医療サービスの通称

辺境地域には、病院がなかったり、
治療に必要な設備や医師・看護師が不十分な場所があります。
そうした地域で病人やけが人が出たとき、
飛行機で駆けつけるのが、flying doctorです。

「救急車ならぬ救急飛行機」

非常事態に助けに来てくれるものというと、皆さんは何を思い浮かべますか。パトカー、救急車、消防車といったところでしょうか。オーストラリアでは、これに飛行機が加わります。

国内の幹線道路を走っていると、下のような標識を見掛けることがあります。標識に書かれている英語は「この道路は、緊急時にRFDSが滑走路として使います」といった意味で、RFDSはRoyal Flying Doctor Service（ロイヤル航空医療サービス）という非営利団体の略称です。RFDSは、flying doctorの名称で、人々に親しまれています。

オーストラリアは、国土面積が日本の二十倍、人口が約五分の一（約二千二百万人）と人口密度が小さく、人口はシドニー、メルボルン、パースといった大都市に集中しています。都市部から数百キロも離れると、人口数百ていどの町がたくさんあり、こうした地域では、とくに病院や医師、看護師の不足が問題になっています。病院があったとしても設備が不十分で満足な治療を受けられないこともあるのです。そんな場所で大けがをしたり病気になったりと、非常事態に陥った人のために存在するのがRFDSなのです。

RFDSは、医師や看護師が患者の下へと飛んで行き、患者の処置を行います。必要であれば高度な医療機器が備わっている大都市の病院まで患者を搬送し、搬送中の応急処置も行います。電話などを通じて、医師のいない地域にいる人に、けがや病気への対処方法を教えるサービスなども行っています。

▶幹線道路を滑走路に使えるのは国土が広いオーストラリアならではと言えます。

「flying doctorは資金難」

都市部から離れたところに住んでいる人々になくてはならない存在のRFDSですが、彼らは近年、資金難という問題を抱えています。

この問題については、新聞でもしばしば取り上げられています。たとえば、「RFDS、問題対処のために戦う」といった見出しで、RFDSが資金難から抜け出すために政府に働きか

▲ RFDSが所有する飛行機。この飛行機に乗ってflying doctorたちは、患者を助けに向かいます。 ©Delemon

けていることが伝えられています。

RFDSは一般家庭にも援助を求めています。わたしも、この三年ほどで二通の寄付を求める手紙を受け取りました。手紙には、帰宅時にオートバイでエミューという鳥とぶつかって意識不明になった人や、旅行時に脳梗塞になった人など、RFDSに助けられた人たちについての話も記されていました。広いオーストラリアに住んでいると、いつこのような非常事態に出くわし、彼らのお世話になってもおかしくありません。彼らがいなくなると困るので、いくらか寄付することを考えているところです。

▲ 活動資金を得るために、患者の談話を載せ、RFDSの必要性を訴えています。